

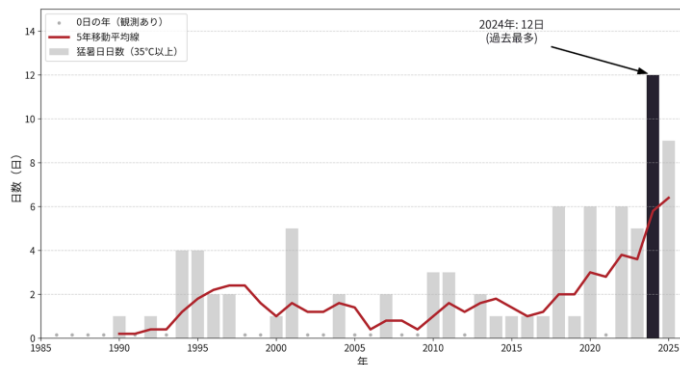


**KASHIMA ANTLERS  
SAF関連PJ (KASHIMA FLY! PROJECT)**

# 鹿島アントラーズが気候変動対策に取り組む理由

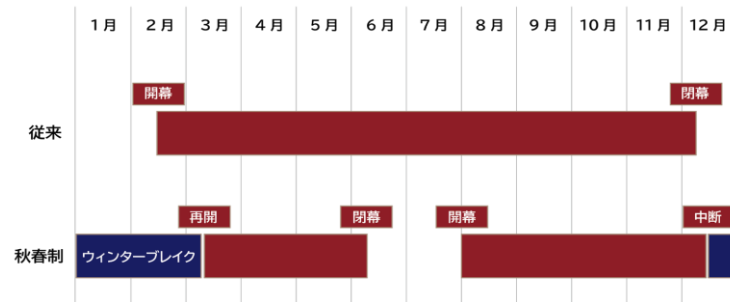
ファクトベースで、ホームタウンエリアの猛暑日が増え続けている状況。  
安心して競技に打ち込める環境保全のため、各クラブ、リーグ全体でのコミットメントを強化中

## 鹿嶋市の猛暑日



1990年初頭:ほぼゼロ → **2024年:12日 (過去最多)**  
猛暑の激増は、フットボール興行を揺るがす深刻な課題

## Jリーグ秋春制への移行&SPL参画



選手の安全とパフォーマンスを  
守るための「生存戦略」

サステナビリティはフットボールの存続に関わる、最優先の経営課題

# 潮流：Jリーグとして「Sports Positive Leagues」に参画決定

環境・社会領域での取り組みを国際基準でスコアリングするSPLへの参画。「資源循環」も評価指標に盛り込まれ、来シーズン以降、発信面含め「待ったなし」の取り組みが求められる状況

## 4月にアジア初となる参画発表

アジア初となるSport Positive League (SPL) 参画を決定 - Jリーグ全体でサステナビリティ事業を推進 - [一歩へ>](#)

2025年4月22日(火) 16:30

アジア初となるSport Positive League (SPL) 参画を決定 - Jリーグ全体でサステナビリティ事業を推進 -

Jリーグニュース



## Sports Positive League 概要



CLUB	Energy and Carbon	Club Energy	Energy Efficiency	Sustainable Transport	Waste Management	Water Efficiency	Local Economic Impact	Community	Education	Governance & Transparency	Sustainability Reporting
1. TOTTENHAM HOTSPUR (UK)	2	2	2	3	1	2	2	2	2	2	2
2. LIVERPOOL FC (UK)	3	2	2	3	1	2	2	2	1	2	2
3. MANCHESTER CITY FC (UK)	2	2	2	3	1	2	2	2	1	2	2
4. BURNHAMPTON FC (UK)	1	2	2	3	1	2	1	2	1	2	2
5. BRIGHTON & HOVE ALBION (UK)	0.5	2	2	3	1	2	2	2	1	1	2
6. ARSENAL (UK)	1	2	2	1	1	2	2	3	1	1	2
7. WOLVESHAMPTON WANDERERS (UK)	2	2	2	2	1	1	1	1	2	1	0.5
8. MANCHESTER UNITED (UK)	1.5	0.5	2	1	1	2	2	2	1	0.5	2

名称	Sports Positive League (スポーツポジティブリーグ、略称 SPL)
仕組み	サッカークラブの気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性をわかりやすく把握できる仕組み。 SPLへ各クラブから報告された気候変動対策にとって重要な12項目の取り組み状況について、独自の評価基準マトリクスを用いて定量的に効果分析が行われる。エネルギー、廃棄物、交通など、カテゴリ別に加算を設けて総合点を算出。SPLからスコアとリーグテーブル(順位表)が公表され、活動内容とともに参画する全クラブが横断的に紹介される。
運営組織	SPORT POSITIVE (イギリス) / 公式サイト: <a href="https://www.sportpositive.org/">https://www.sportpositive.org/</a>
創設	2018年、創設者 クレア・プール (UEFA 環境諮問委員 他)
その他参画リーグ	プレミアリーグ(イングランド)、EFL チャンピオンシップ(イングランド) ブンデスリーガ(ドイツ)、リーグアン(フランス) Jリーグは2025年の準備期間を経て、2026年1月から正式に参画(アジア初)
対象事業	参画リーグのクラブが実施する気候アクションのうち下記の12のカテゴリに関する事業 (1)リソースとコミットメント、レポートイング、(2)再生可能エネルギー、(3)エネルギー効率 (4)環境負荷の少ない輸送手段、(5)買い物袋でプラスチック削減・廃止、(6)ゴミの削減管理 (7)水の効率的な利用、(8)フットパース、(9)医薬品食品、(10)生物多様性、(11)教育 (12)コミュニティエンゲージメント、(13)持続可能な調達
ランキングと評価	評価と公表のスケジュールは各リーグごとに設定される
導入後の変化例	SPL 導入後の変化として、2018年から参画したイングランドプレミアリーグの場合、2023年には18クラブがウェブサイト上サステナビリティページを開設し、6クラブが「CO2 排出量ネットゼロ」の目標を掲げている。さらにトップ選手がリサイクル推進や電気自動車利用、植物性食品摂取などを紹介する動画に出演し、気候アクションに参画。こうした動きはクラブの経営にも好影響をもたらしている。

出所：Jリーグ公式ページより  
<https://www.jleague.jp/news/article/30781/>

## クラブのサステナビリティ方針

これからも、地域と持続可能な成長を続け、クラブの活動を通して、価値還元を実現していくための方針を策定  
3つのテーマに分け、ステークホルダを巻き込みながら、個別アクションに落とし込みへ

### Planet（地球）



クラブの活動による環境への影響を最小限に抑え、気候変動に適応した持続可能な競技環境を守ります。

### Family（地域・パートナー）



地域社会やパートナー企業と連携し、地域の課題解決と持続的な発展をともに実現します。

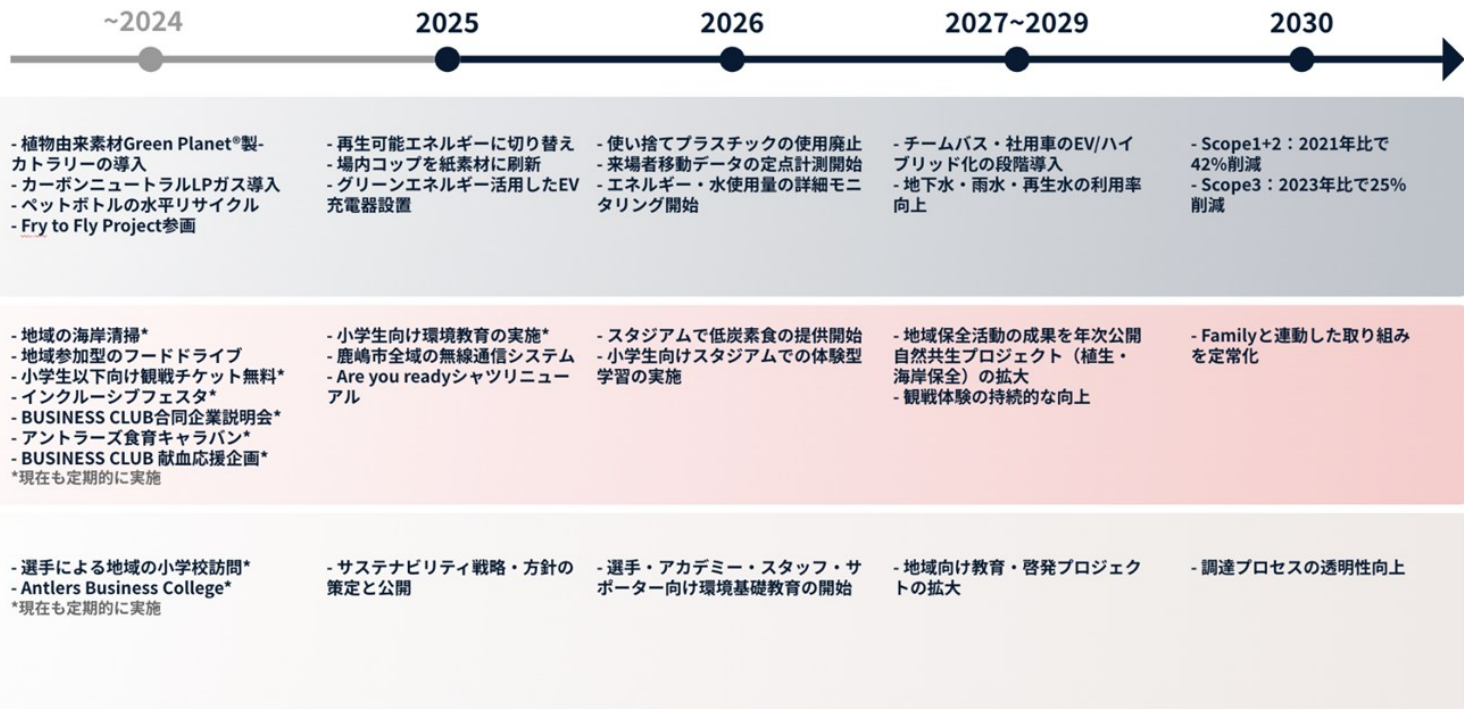
### Spirit（哲学・ガバナンス）



教育や発信を通じて、サステナビリティへの関心と行動を広げ、地域や社会にポジティブな影響を届けていきます。

# アントラーズのサステナビリティロードマップ

Sports Positive Leagues の指標、有識者との交流・助言も取り入れながら長期的な視座を持ちアクション積み重ねへ



## 参考) 既に開始されている具体アクション

パートナー企業のアセットやナレッジを借りながら、スタジアム、ホームタウンなどのフィールドで様々な取り組みを推進～サポーターの巻き込み・興味喚起を積み上げ

再生可能素材製の資材（コップ・カトラリー・ショップ袋等）使用

ペットボトルの回収  
水平リサイクル

エコステーションでの分別促進  
Re Cup Washerの導入

スタジアムへのグリーン電力供給  
エネルギーの地産地消の推進



w/カネカ・東洋製罐HD



w/サントリー



w/東洋製罐HD  
(日本財団)



w/オクトパスエナジー・  
常陽銀行グループ

# 官民連携の新規実装：アントラーズSAF ←NEW！

サステナビリティに関連するクラブ独自の取り組みとして、関連業界団体、行政と連携の上、廃食油回収→再生航空燃料（SAF）化の取り組みをクラブがリード

SAFとは・・・

SAF (Sustainable Aviation Fuel)

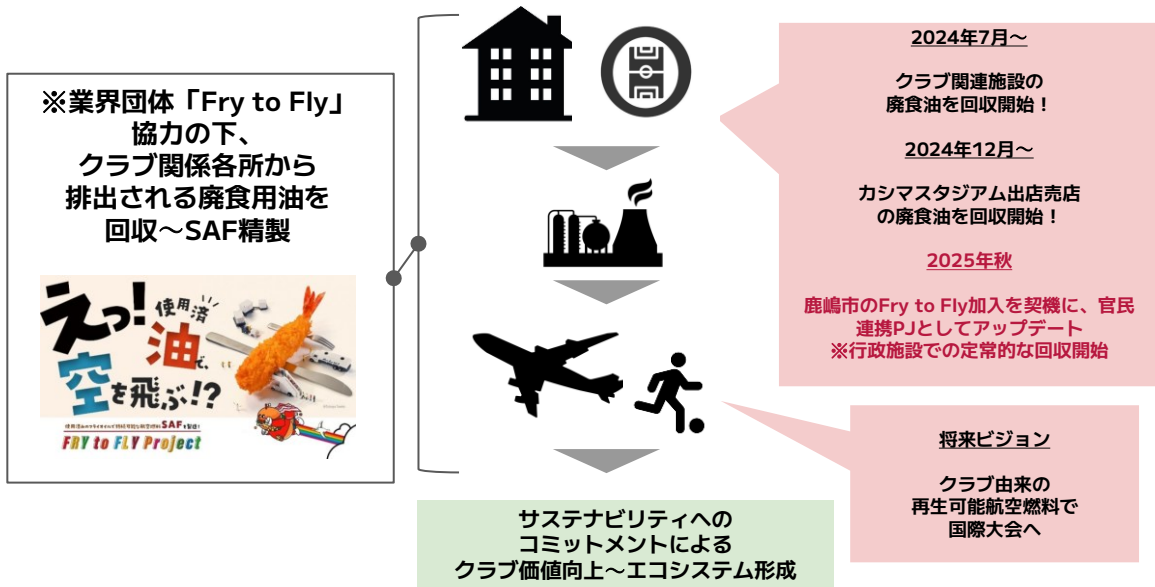
循環型原料由来（廃食油など）の、  
環境にやさしい航空燃料

- + CO2 排出量の削減
- + 既存インフラで製造可能
- + 国産原料で製造可能
- 製造コストが高い

世界的な使用圧力強化の中、原料高騰により、国内での原料確保・製造に苦戦している状況。

微量でも回収～気運をつくる意義は大きいため、IPホルダーとしてムーブメントを起こしていきたい

検討スキーム



# アントラーズSAF 実装イメージ

クラブを中心に、各ステークホルダーが一丸となり、廃食用油の回収～SAF化を推進、  
アントラーズの象徴的なサステナビリティアクションとして発信、人々の行動変容へ



## KASHIMA FLY! PROJECT ※仮称

クラブの呼びかけで、賛同（廃食用油提供・発信協力）企業を募り  
回収量を増やし、取り組みとしての“実”の強化を目指す

### クラブ

- ・クラブ施設（食堂・選手寮）
- ・スタジアムでの回収

### 行政

- ・公民館等行政施設での回収
- ・給食センター

### パートナー企業

- ・レストラン等
- ・社員食堂
- ・社員寮

専門事業者のレポインターナショナル社が各社から回収（買取）の上、  
Fry to Fly 構成企業のコスモ/日揮HD/SAFFIRE SKY ENERGYでSAFに精製



**Football**

**Dream**

**O N E**